

平成29年度 第4回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1. 日 時 平成30年3月27日（火） 午後1時～午後2時30分
2. 場 所 文化創造拠点シリウス2階 会議室2-2
3. 出席状況 委 員 5名
事務局 5名（文化スポーツ部長ほか4名）
指定管理者 7名（やまとみらい統括責任者、やまとみらい代表企業（株）図書館
流通センター営業部長、芸術文化ホール館長、図書館長、生涯
学習センター担当者、屋内こども広場館長、防災センター所長）
4. 傍 聴 人 なし
5. 次 第
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）平成29年度指定管理者の評価について
 - 3 その他
 - 4 閉会
6. 会議資料
 - 指定管理者の評価について
 - （文化創造拠点運営審議会用）平成28年度大和市文化創造拠点評価書
7. 公開・非公開の状況
■公開 □非公開 □一部非公開

<会議要旨>

- 1 開会（公開）

事務局より委員の出席状況と会議の成立について報告を行った。
- 2 議題
 - （1）指定管理者の評価について

事務局より平成29年度分の指定管理者の評価について説明を行った後、指定管理者より、平成29年度の主な事業の報告を行った。

 - ・全体報告（一周年記念事業、広報活動等）
 - ・各施設からの事業報告
 - ・その他（防災訓練等）

【質疑応答】

- 委 員 : 2年目は1年目と違った苦労があると思うが、このシリウスが市民の憩いの場、心が豊かになる場となっていることを日々感じている。これも行政と指定管理者のおかげであり、お礼申し上げる。指定管理者の説明を聞き、いろいろな展開をしていることがわかった。各イベントの参加人数が少ないのはこれから増えるのかと思うが、イベント後はアンケート等を実施しているのか。
- 指定管理者 : アンケートは実施している。
- 委 員 : 子ども関係のイベントについては、学校等にも周知しているのか。
- 指定管理者 : 小学生のイベントであれば各小学校にも周知している。そのほか、青少年センターや各地区学習センターにも周知している。
- 委 員 : 健康テラスイベントの参加人数は10～20人が通常なのか。
- 指定管理者 : 部屋の大きさの都合もあり、定員自体が10～20人としている。
- 委 員 : これから定員を増やしていくことはあるのか。
- 指定管理者 : 定員は増やしたいが、参加者全員に目が行き届く人数を考えながら実施することとも必要と考えている。
- 委 員 : やまとみらいとして、一体感を持って事業を推進することが必要。生涯学習センターまつりを見ても、学習センターが6階、ホール、ギャラリーが1階と個々に実施している。広報活動についても、広報やまとみらいが年6回発行しているが、図書館、子ども広場、学習センターの総合的なものを発行してはどうか。11月3日の開館一周年事業は全館で実施されたが、1日だけでなく1週間位実施する等、大きな事業を全体として展開される形を期待したい。
- 指定管理者 : 年、何回かはやまとみらいの融合事業をやっている。一周年事業は3日間行ったが、全館上げての事業であった。委員の言う一体感が感じられる取り組みについての工夫は今後も考えていきたい。
- 委 員 : 来館者のうち何人くらい一周年記念事業に参加したのか。
- 指定管理者 : 一周年事業に参加した人数は集計していない。
- 事 務 局 : 来館者数でいうと、11月3日は15,700人、11月4日が11,000人、11月5日が12,000人、通常の土日は9,000人から10,000人位なので、その3日間は非常に多くの人が来館したといえる。
- 委 員 : 魅力ある事業の展開ということで、イベントも多種多様で素晴らしい成果を上げたと思う。当初は平均点位いけばいいと思っていたが、はるかに素晴らしく、市に貢献したと思う。これからは新しいことへのチャレンジという目標を掲げ、発展を期待したい。図書館の関係で1つ伝えたい。市立図書館に法律書が少ないということを聞いた。頭の片隅にとどめてほしい。
- 指定管理者 : 法律書の件は承知した。図書館では法律関係のデータベースをパソコンで提供しているので活用してほしい。
- 委 員 : 今、全国で注目を受ける図書館や生涯学習施設には、2つのタイプがある。まずはサードプレイスと言われる、家や学校、職場以外の居場所となる場所。居心地の良い快適な雰囲気づくりを工夫している施設が非常に賑わっている。もう一つは、地域の賑わいの創出を担う施設。特に地方では、その施設だけでなく周辺地

域も巻き込んで地域全体を活性化していく起爆剤となるという考え方。今日の話を聞き、指定管理者が行っていることは、まさに、居場所づくりであるし、イベントを通して地域を巻き込んでいる。施設の外に出て自分達から市民のところに飛び込んで行き、1つのイベントとして作りあげようとしているところが素晴らしく、感銘を受けた。そこで2点聞きたい。1点目は、今回ホールでアウトリーチのイベントを実施しているが、今年度はトライアル事業として実施し、アンケート結果を分析しながら、戦略的に発展していくという意味で取組んでいるということか。2点目は、図書館に対してだが、資料提供の部分、あるいはレファレンスの部分の報告が今回なかったが、どのように自己評価をしているのか。

事務局：2点目の質問については事務局から回答する。今回の報告ではイベントを中心に報告させてもらった。貸出数等の数値は、年度終了後、指定管理者から事業報告書が出てくるまで、しばらく時間がほしい。次回の審議会の時に提示をしたいと考えている。今回は評価ではなく、指定管理者が様々な取り組みを進めてきたことを委員の皆様を理解してもらうため、このような機会を設けた。

指定管理者：ホールから回答する。委員のおっしゃるとおり、鑑賞事業一つ取っても地域の方にどのように届けるか、様々なトライアルを行っている。実施後はアンケートを分析・考察している。そうした積み重ねから、求められていることを検討し、計画に反映させている。この1年間でそういったサイクルが出来つつある。最初は、いろいろ見てもらい、興味を持ってもらう。そして次は、我々がサポートしながら、市民が主体となり作品の創造に関わってもらう。このように段階を経ることによって、市民とホールが一緒に育っていくことになる。それが早すぎても遅すぎてもいけない。また、シリウスに来られない人に対しても、シリウス外の施設でのコンサートでつながった時に、地域のどのような人達にどのような場所でどのような内容で実施するのか、考えながらやっていきたい。この点も来年度はトライしていきたい。

委員：非来館者への大規模アンケートは行うのか。

指定管理者：そこまではまだ考えていない。

事務局：非来館者へのアンケートは市の仕事と考えている。指定管理料や仕様書の制約の中で、来年度以降、イベント回数を増やすというのもコストの問題がある。市側としては仕様書で回数を示している部分もあるので、指定管理者は其中で工夫を凝らしてくれていると考えている。

委員：こういった報告を聞く機会では、事業の内容のみならず参加者の感想を知りたい。また、シリウスの事業として各施設がどのように融合に至っているのかも報告に加えて欲しい。その前段階として、全体の事業と施設のミッションとの整合性についての評価を指定管理者、市、この審議会で見していきたい。サードプレイスという言葉も出たが、こうした文化施設が地域の中でどのようなポジションにあるのか、一方で都市間競争、地域間競争が激しくなるなか、限られたコストで文化施設が果たすミッションも時代で変化していく。そうした時間的エフェクトに対する認識から、新たな事業を加えた等の変化があっても良いのではないかと思う。事務局から評価の指標は経年変化を見るうえで、変更はしないと説明された。ただ、この事業を増

やしたとか、この事業はやめたとかの実質的な内容の変化は時系列で捉えておいて欲しい。これによって大和市民の意識の中でどのように愛着や郷土愛につながったのか。こういった市民の意識と指定管理者の事業との関係についても考えてほしい。この文化創造拠点に加え、対象となる施設がこの先増えてくる。事業を行う場が増えることになるので、今後は評価も変わっていくことになると思う。これら新たな拠点への指定管理の追加ということについては、前回の審議の中で厳しい意見もあった。そういったことも踏まえ、今後の展開を検討願いたい。今回いろいろな事業を紹介されたが、目の前に事業がたくさんあると、自ら客観的に考える機会が少なくなる。是非そういう点も市との共同を考え、深め、事業のブラッシュアップにつなげてくれることを期待する。

委員：指定管理者の選定の際提案があったと記憶しているが、施設内にもっと緑があればいいと思う。4階の介護コーナー周辺に緑があればもっと憩いの場となるので検討願う。

事務局：市と指定管理者の協議の中で、実現可能なことを整理した。市からの要望もあったと推測される部分でもあるので提案どおりにはならないということを理解してもらいたい。

委員：先日、コミセンの研修会で茅ヶ崎の新しいコミセンを視察した。喫茶店やオープンスペース、一部に図書がある複合施設だった。シリウスはそれをもっと大きくしたようなものだ。2年目、3年目でより一層の発展を望む。

委員：コミセンの話が出た。今、コミュニティをどのように形成するかが地域にとって課題となっている。学校や会社を通じた縁と、スポーツや文化活動を通じた縁というのは違った性質の縁といわれる。特に文化活動の縁は肌の色、言葉、年齢や社会的なバックグラウンドの違いを超え、新しい可能性がある縁である。文化活動の縁をつくることは、新しいコミュニティの形成に非常に重要な要素。シリウスは、そのような縁の部分も担っているので、この大和に文化を通じた新しい縁が生まれることを期待している。

3 その他（公開）

特になし。

4 閉会（公開）

以上